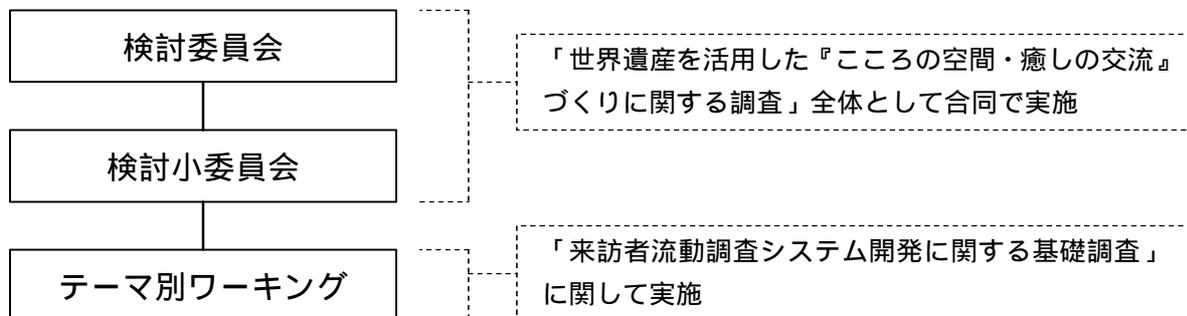


資料5 . 委員会等の経過

本調査では、下記の委員会を開催し、提言を受けながら実施した。



検討委員会

委員名簿

| 区分 | 氏名 | 所属 |
|-------|--------|--|
| 委員長 | 石森 秀三 | 国立民族学博物館文化資源研究センター長 教授 |
| 委員 | 佐藤 友美子 | サントリー不易流行研究所 部長 |
| | 坂本 勲生 | 本宮町語り部の会会長 |
| | 白川 太郎 | 京都大学大学院医学研究科 社会健康医学系専攻 健康要因学講座 健康増進行動学分野 教授 |
| おざ-ハ- | 原田 修吾 | 近畿運輸局企画振興部交通・観光調整官 |
| | 梅村 庄三 | 三重県農水商工部観光政策監 |
| | 久保田 幸治 | 奈良県企画部観光交流局観光課長 |
| | 北田 佳秀 | 和歌山県知事公室政策審議室長 |

開催経過

< 第1回検討委員会 >

日 時：平成17年1月26日 15:00～17:00

場 所：UFJ総合研究所

出席委員：石森委員長、佐藤委員、坂本委員、白川委員

主な内容：・世界遺産を活用した「こころの空間・癒しの交流」づくりに関する調査を構成する3調査（「来訪者流動調査システム開発に関する基礎調査」、「世界遺産を活用した健康増進観光のあり方に関する基礎調査」、「熊野古道の健康効果の検証」）の枠組み及び調査の進捗状況に関する事務局からの説明。
・各調査の内容に対する、委員からの包括的な提言。

< 第 2 回検討委員会 >

日 時：平成 17 年 3 月 24 日 13:00～15:00

場 所：東洋ホテル

出席委員：石森委員長、坂本委員、白川委員

主な内容：・世界遺産を活用した「こころの空間・癒しの交流」づくりに関する調査を構成する 3 調査（「来訪者流動調査システム開発に関する基礎調査」、「世界遺産を活用した健康増進観光のあり方に関する基礎調査」、「熊野古道の健康効果の検証」）の結果に関する事務局からの報告。
・本調査の結果を踏まえ、本地域の今後の観光振興について各委員から包括的な提言。

検討小委員会

委員名簿

| 区 分 | 氏 名 | 所 属 |
|-----|--------|--------------------|
| 委 員 | 国府 美嗣 | 近畿運輸局企画振興部観光振興課専門官 |
| | 横山 弘起 | 三重県農水商工部観光・交流室長 |
| | 久保田 幸治 | 奈良県企画部長観光交流局観光課長 |
| | 北田 佳秀 | 和歌山県知事公室政策審議室長 |

開催経過

日 時：平成 17 年 3 月 18 日 10:00～11:30

場 所：UFJ 総合研究所

出席委員：国府委員、横山委員（代理：太田主事）、久保田委員（代理：中村課長補佐）、北田委員（代理：岡副室長）

主な内容：・世界遺産を活用した「こころの空間・癒しの交流」づくりに関する調査を構成する 3 調査（「来訪者流動調査システム開発に関する基礎調査」、「世界遺産を活用した健康増進観光のあり方に関する基礎調査」、「熊野古道の健康効果の検証」）それぞれの中間報告
・各調査の結果のとりまとめに関する意見交換
・集約版及び報告書の取りまとめ方に関する意見交換と調整

テーマ別ワーキング

委員名簿

| 区分 | 氏名 | 所属 |
|----|--------|-------------|
| 委員 | 村田 武一郎 | 奈良県立大学 教授 |
| | 村橋 正武 | 立命館大学工学部 教授 |

開催経過

<第1回ワーキング>

日時：平成17年3月25日 14:00～15:30

場所：大阪湾研究センター

出席委員：村田委員

主な内容：・本調査全体の枠組みに関する事務局からの説明と、「来訪者流動調査システム開発に関する基礎調査」の結果に関する報告。

・観光誘導における視点について、委員より事務局に提言。(以下提言要旨)

○本地域全体の観光誘導においては、従来までの観光客の層ではなく、新しい層を呼び込む視点が重要である。

○地域の人々と観光客が関わる仕掛けづくりに取り組むことにより、歴史的遺産や自然だけではなく、「人」が観光資源となる。地域の人々によるもてなしについても調査の分析内で触れる必要がある。

○観光ニーズに対応して情報発信を行うだけではなく、本地域へと訪れた経験の有無によっても情報発信のあり方を変えていく必要がある。

<第2回ワーキング>

日時：平成17年3月31日 12:30～14:00

場所：ホテルグランヴィア京都

出席委員：村橋委員

主な内容：・本調査全体の枠組みに関する事務局からの説明と、「来訪者流動調査システム開発に関する基礎調査」の結果に関する報告。

・観光誘導における視点について、委員より事務局に提言。(以下提言要旨)

○来訪者流動システム調査の結論として提案している今後の調査手法では、他の既往調査を利用して結果を検証する方法と、調査を実施した場合にかかる費用と労力についても盛り込むべきである。

○円滑な観光誘導に向けた調査研究において提案している情報発信のあり方については、今後三県間をはじめ、様々な主体の参加をおおぎ、議論していくべきである。